

平成24年 第9回 教育委員会定例会議事録

招集日時 平成24年8月23日(木曜日) 午後1時30分開会/午後3時25分閉会
招集場所 加賀市市民会館2階 第7会議室
出席委員 石橋雅之、上田政憲、小林圭子、酒谷百合子、旭直樹
会議列席者 掛山事務局長、梶谷教育庶務課長、西出生涯学習課長、谷口スポーツ課長、田嶋文化課長、
寺田図書館長、米屋課長補佐

石橋委員長 平成24年第9回教育委員会定例会開会宣言
挨拶
それでは議案第27号について事務局よりご説明をお願いします。

■ 議案第27号 加賀市教育振興基本計画について(継続審議)
梶谷課長 掛山局長 資料に基づき説明

石橋委員長 ということで、こちらを追加していきたいという修正案でございます。これも含めまして、前回、加賀市教育振興基本計画を配付いたしましたので、それをお読みいただいた上でご質問、ご意見ございませんか。

旭教育長 二点ほどよろしいですか。一つ目は、市担当部署と市長部局どちらに統一するのですか。

梶谷課長 市担当部署です。

上田委員 統一性があつた方がいいような気がするのですが、市長部局というのを何度か見ました。

旭教育長 担当部署になると一点集中だけど部局は面になる。

上田委員 市担当部署は初めて見ると思います。

石橋委員長 『市長部局との連携』とされていますね。それでは市長部局でよろしいですか。

梶谷課長 はい。

旭教育長 二点目はパブリックコメントもさることながら、教育民生員会で学校の適正規模・適正配置、これは宮崎議員が聞いたものだと思います。それから人権教育、環境教育、少人数学級、少人数授業、その辺については何らかの文言で教育振興基本計画には入っているわけですね。おそらく今度の9月議会でこれを公表します。今日、教育委員会が終わってから公表という運びになりますので、おそらくまた議員さんその他、言っていることが一つも直っていないというふうにとられる可能性があります。10年ごとに見直すということもあるし、あわら市の教育長さんもおっしゃっていたように現実はどうも動いているんです。だから去年の10月頃にかけていたことは、今では間に合わないようなことになっている。そういう細かいことを入れていたらきりがないので、ただ、触れておかないといけないという原則でこれは作ってあ

ります。だから学校の適正規模・適正配置の基準については今検討中だし、人権教育についても何らかのかたちで1センテンスでも入っていないと言われる可能性がある。環境教育、小人数学級、少人数授業についても然りですが、事務局に確認ですけど入っておりますね。

掛山局長 はい。

石橋委員長 教育長、見直しは5年後ではないですか。

旭教育長 5年後に見直して10年に1回改定します。

石橋委員長 各委員さん、今ほどの訂正以外に何かございませんか。

上田委員 細かいことなのですが、字を直した方がいいのではないかとこの部分が随分たくさんあるんですが、どうしたらいいですか。

掛山局長 言うていただければ直します。

上田委員 やっぱり教育委員会として出すならば、きちんとした言葉遣いとか、あるいは統一性がないといけないと思うのですが、全部言うと時間がありません。

石橋委員長 そんなにたくさんあるのですか。

掛山局長 お許しをいただければ、添削されたものを預かって直します。

石橋委員長 幾つか例をお願いします。

上田委員 例えば1ページ目、『石川県においては』とありますが、好みの問題もあるかもしれません。『第一歩』の『一』というのは漢数字でないといけない。これは算用数字になっています。4ページ目、『出来』という言葉は中々難しいんですけども、5～6行目に『出来』という漢字が2つ入っていますが、出来不出来という場合は漢字を使いますが、できるとかできないというときは平仮名なんです。

旭教育長 直しておいて下さい。

掛山局長 『出来』はいっぱい出てきますね。

上田委員 いっぱいはないです。その下も直さないといけないと思いながら、僕は何もしてないんですけど、『高度情報社会に流されない』という表現はおかしくないですか。『高度情報化に流されない』ならわかるのですが、『社会に流されない』というのはおかしい。

掛山局長 これは審議会で指摘があった気がします。

旭教育長 それに近いものがいくつかあるのですか。

上田委員 次5ページ3行目、『為』というのは漢字で書いてはいけません。平仮名です。それから『②社会の一員として生きる基盤を育てる』これも変じゃないですか。『生きる基盤を整備する』というならわかるんですが、基盤を育てるといえるのはおかしい。そんなのが結構あるんです。

掛山局長 お許しいただければ、それをそのままお預かりさせていただいてチェックをかけます。

石橋委員長 上田委員、基本的にはこういった文言の使い方、用語の使い方がおかしいのではないかとこのご指摘ですね。

上田委員 はい。それ以外は特にありません。

石橋委員長 それによって今回の趣旨が大幅に変わるような内容ではないんですね。

上田委員 基本的にはないです。

旭教育長 一度校正して、読み直して、世に出すときには主語と述語とか今のように基盤は物だから物を育てるということに繋がらない。言葉を聞いていると何も思わないのですが、文章にするとおかしいですね。基盤は整備か整えるかにしないとイケない。

石橋委員長 国語力の話になってきますので、上田委員さんのご指摘部分を事務局にお預けし、十分に推敲し精査した上で変更が必要なものに関しては変更するというのでよろしいですか。そうしないと一つ一つやるとあまりにも時間がかかりますので、まして内容が変わらないのであるならば、審議委員さんの思いも変わるわけではないと思いますので、それを前提の下に推敲・精査をお願いいたします。各委員さん他にございますか。

旭教育長 ちょっと事務局に確認。内容的に上田委員さんがおっしゃったことはやりませうけども、一応ここで最後ということですね。

掛山局長 そうです。

旭教育長 そうすると公表はどのようなかたちで正式にして、9月議会はありますが、どのようなかたちで市民に周知するのか。今後の流れをもう一回お願いします。

掛山局長 今日決定いただければ、これで教育振興基本計画書ができたかたちになります。議会については報告するだけになります。あとは市民に対して公表していく。議会に公表するのも、市民に対して公表するのも同時期にします。もちろん市長にも報告します。

旭教育長 市長にはいつ報告するんですか。

掛山局長 全ての作業が終わった時点で市長に報告します。

石橋委員長 議会より先ということですか。

掛山局長 はい。市民にはこういうものができましたということで、マスコミにももちろん報告をしたいと思います。

石橋委員長 他にございますか。確認ですけど、前にも確か質問が出てお答えいただいたと思うんですけど、先ほどのあわら市でいただいたような概要版をおそらく作りますよね。それは大分あとになるんですか。

梶谷課長 市長への報告までにあわせて出したいと思います。議会半ばになりますけども、9月になるかと思えます。

石橋委員長 その印刷予定部数と資料配付先とか利用方法は考えておられますか。

掛山局長 私どもは業者印刷はしません。手作りですでしていただいて、あわら市さんのようなかたちにはなりません。表紙くらいは、手作りですけどももう少しカラフルにしますが、基本的にはこういったもので出させていただきます。配付はもちろん教育関係機関、例えば各学校、公民館、審議いただいた各委員さん、そういう機関に送らせていただきます。県教委にも送らせていただきますし、ホームページ上にも掲載いたします。もし希望があるところがあれ

ば出していきたいと思います。配付するのは学校、公民館、教育機関だけです。概要版についても印刷はしますけども、同様の扱いです。あとは視察等の資料に持参するとか、教育委員会についてのいろんな会合等に出させていただくというかたちになるかと思います。

小林委員 寂しいです。せめてあわら市さんのようなものか、手作りでも表紙くらいしっかりしたものにしていただけたらと。

掛山局長 はい。表紙くらいはしっかり作ります。

石橋委員長 そうすると部数はどれくらいですか。

掛山局長 手作りということはいつでも増刷できますので、当面は100か200というところだと思います。ただ、広報やホームページ上ではできたということ載せたいと思います。

石橋委員長 例えばこれをpdf版にして、ネットからダウンロードすることは可能ですか。

梶谷課長 そちらの方が主になってくるかと思います。今の総合計画、市の方も印刷部数が少なく、ネットで出していただくという方が主流です。それに倣いたいと思います。

旭教育長 確かに冊子でできたとなると、結局読まないで終わるという現状があるから、それはわからんでもないんだけど、いかに周知するかということが大事。まず加賀市教育委員会はこんなことをしているということくらいは周知しないといけない。そのためには、いかに広報するか戦略を考えないといけない。一番知ってほしい対象は一体誰なのか。その優先順でやってほしい。撒くところはどこですかというのではだめなんです。この教育振興基本計画を少しでも読んでほしいのは保護者です。だからPTAが抜けているでしょう。これをどう配るのか。それから公民館はもちろんだけども、地区協議会があるでしょ。そういうところも地域の人に知ってもらわないといけない。学校の先生はしょっちゅう言っているわけだから、これは当然学校に配らないといけない。そういったところを徹底して何度でも撒ける体制ですよ。何か委員会がある度に、加賀市はこうやっているんですよと言える体制で、それからストックも置いておかないといけないし、当面200は作れば良いと思う。その辺の戦略を考えていかないといけない。特に売りは文化財なんです。教育ももちろんいいけれども、最終的に狙うのは故郷に誇りを持って志のある子を育てていくという大きな目標があるから、そのための5課体制です。中身をどうのと批判する人もおられるけれども、立派なもんやと胸を張って出せるものであると思うので、いくらお金がないからといっても使うところは使って、製本はしなくてもいいけれども汗を流して周知してほしい。それがお願いします。

石橋委員長 他よろしいですか。それでは、大体ご意見が出尽くしたようですので採決を採りたいと思います。議案第27号につきまして、ただ今説明がありました一部修正・追加、その他含めることを前提といたしまして、ご承認をいただける方は挙手をお願いいたします。

全委員 全員挙手
石橋委員長 全員賛成を持ちまして本議案は承認されました。宜しく願いいたします。
旭教育長 これは平成 24 年 8 月、加賀市教育振興基本計画審議会から石橋教育委員長さんに答申されたもので、ここは加賀市教育委員会になります。もう答申ではないので表紙が変わります。

石橋委員長 この教育振興基本計画でございますが、これを作ることがゴールではなく、あくまでここからスタートでございますので、そのことを教育委員会事務局、我々教育委員も含めてきちっと認識をし、どのように具現化していくのか、学校現場、あるいは PTA を含めて各地域の人達にどれだけこれを活用しながら子どもの教育に役立てていくのか、ここが一番大事なことだと思いますので、私自身が自らに言い聞かせた部分も含めまして、改めて皆さんにこのことをお伝えいたします。宜しく願いいたします。それでは審議事項はこれを持ちまして終了しました。続きまして、報告第 13 号について事務局よりご説明お願いします。

■ 報告第 13 号 平成 24 年度 9 月補正予算（市長裁定）について
梶谷課長 資料に基づき説明

石橋委員長 何かご質問ございますか。
全委員 質問なし。
石橋委員長 ないようでございますので、報告第 14 号にまいりたいと思います。

■ 報告第 14 号 加賀温泉郷マラソン新コースについて
谷口課長 資料に基づき説明

石橋委員長 補足または何か質問ございますか。
酒谷委員 ちょっと聞いていいですか。スタートしてから山中温泉の菊の湯まで行って、またずっと山代の町の中、同じ道を帰るのですか。
谷口課長 そういことです。また補足しますが、当初大聖寺から回って加賀市を周回できないかと思ったのですが、どうしても大聖寺署の警察官だけでは元々無理なことがわかっていたので、市長にご足労願いまして県警本部にもお願いに行っていたんですが、基本的には応援はできない。ということになるとそれでは、信号を操作するのにどうしても警察官が 2~3 名要ります。信号を止めたり時間を変えたりするのにも限界があります。信号を止めてするとなると警察官を転送するそうなんです。A 地点から B 地点に当然行き来をしないとイケないし、そうすると警察も非常に危険であるし、そんなことはしたくない。間に合わなかったら誰が止めるのか、止めなければいけないときに止められなくなったら大変であることを非常に恐れています。これですとあまり動かなくていいという経緯もありました。細かいことを言

いますと、片山津温泉に関してはかぼちや村から下に下りて、季がさねの前を
通って七日市のポンプ場のところに出る道がありますからそこへ行って、
それから庄に出る。これはふるさと駅伝と同じです。それから山代の中では
古総湯の前を通過して、別所の区画整備された、あえて信号機のない町中に入
ります。そこから山中に向かうということです。

石橋委員長 8号線近辺で一ヶ所だけ行きと帰りが違うんですね。

谷口課長 そうですね、狭いんです。往復でやりますとすれ違いますので、ただでさえ
狭い場所を通るもんですから、行きと帰りを分けざるを得なかった。参加人
数が増えてこれがもし2,000人になった場合は、とてもじゃないけどキャパ
オーバーしますんで非常に危険です。ただ、皆さんご存知のように後に4車
線化の中で改良されていくんだらうし、そのときは当然高さ、幅、全部比べ
物にならない道になると思いますので、そういうところは変更になってくる
んだらうと思います。各論に入りますと、まだまだ出てくると思うんですが、
ベースとしてご理解いただければと思います。どこかが一つ崩れれば全部崩
れるので、できれば気持ちよくご協力いただければと思います。

石橋委員長 案1と書いてありますけども、2はあるんですか。

谷口課長 すみません、これはそういう意味ではないので消して下さい。1だけです。

石橋委員長 わかりました。引き続き詰めていただければと思います。特にございません
ね。それでは、報告第15号について事務局よりご説明をお願いします。

■ 報告第15号 新任加賀市ALTについて
梶谷課長 資料に基づき説明

石橋委員長 何かご質問ございますか。

旭教育長 ALTについては2年ずつくらいいてほしいんですが、去年までいたニコラは
2年いたんですけどもミリアムは1年でした。この子達も自分の勉強にはな
るけれども、我々としては加賀市の子供達の英語力アップに繋がるかどう
か。彼等もとにかくまずは日本語を勉強してもらわないと苦しいんです。オ
ーエンはアイルランドで430万人くらいの国で、ダブリン100万人ほどです。
ニュージーランドも400万人くらいの国で、ウェリントンが首都ですけども
40万人くらいです。この子は埼玉県にホームステイをしていたんです。また
機会があれば教育委員さんに交流するように、それまでとにかく日本語を
勉強してもらって、よろしければお呼びになって家でホームパーティされて
も結構ですし、声を掛けていただければと思います。以上です。

石橋委員長 質問いいですか。ALTを選任するにあたってどのように人選しているのです
か。

旭教育長 人選は会社任せですね。これはそういう英語指導助手の会社というか派遣会
社JETプログラムがあって、そこへ加賀市が条件を出すんです。英語文化圏
の子で、特にイギリスであるとか、男の子と女の子とか。

掛山局長 ー それを指定して向こうが選んでできます。

梶谷課長 ー 運営している組織に対して加賀市が希望を出して、ご本人の希望もあって選ばれてきます。

旭教育長 ー 穴が開くことは絶対にはないですが、こう言ったらいかんですけども日本語が堪能で来たときからすぐに使えるという子もいれば、中々馴染まずに1年で帰る子もおりますし色々です。基本的に教育を受けてきていますから安定はしているんです。ただのパフォーマンスだけをするのではなくて、教育学の基に指導しますからこれは安心していきます。

酒谷委員 ー 日本語がわからなくても大丈夫なんですか。

掛山局長 ー この子達は優秀ですから一生懸命勉強します。

小林委員 ー お帰りになるまでにはある程度日本語ができるのですか。

旭教育長 ー 喋れなくても聞き分けることはできます。

小林委員 ー その方達はホームステイではなくてお一人でどこかに住まわられていますか。

掛山局長 ー アパートに一人で住んでいます。

石橋委員長 ー 今加賀市には2人だけでしたか。

旭教育長 ー 高校は全部いますから。そういう高校のALT達とも交流していますので孤立することはないです。

石橋委員長 ー 担当学校が、中学校と小学校も入っておいでますが。

掛山局長 ー それ以外では別の英語の先生で加賀市に住んでおられる外国の方とか、英語を話される方を活用しています。

山下指導主事 ー アレックスさんと重森さんです。日本人で英語が堪能な方なんですけれども、教員免許がなく教諭の助手というかたちで入ってもらっています。

旭教育長 ー 英語が堪能な人はいっぱいいますよ。ただ、教員免許を持っていないもので、講師というかたちになります。アレックスは山代に住んでいて日本語もぺらぺらです。彼の場合、教育学を専攻していないから、彼の授業を一度見たけど楽しいんです。けども次に繋がらないんです。やっぱり教育学というのはトータルで繋いでいくものですから、毎日ハッピーな授業をされても子ども達の語学力がつくわけじゃない。しっかりと教育学を勉強してきたオーエンとかザンシーの方が確実にステップアップしていく。そういうものです。表面だけ見るといいように見えますけども、ただうるさいだけ、ということになりかねない。

石橋委員長 ー 他によろしければ、報告第16号について事務局よりご説明をお願いします。

■ 報告第16号 平成24年度全国学力・学習状況調査の結果について（非公開）
山下指導主事 資料に基づき説明

石橋委員長 ー 何かご質問はございますか。

旭教育長 ー 学力向上に向けては、本当にこれ以上目いっぱいではないかというところま

できております。今日あわら市教育委員会に行きましたけども、予期せぬそういうお子さん方がこっちに来られると、こっちも大事なんだけど大多数の子ども達が気になっているんですね。そこがジレンマで先生方が今苦しんでいるというのが現状なんです。教育委員会としては先生方の専門知識をうまく子どもの方へ精力を注いでくれるか、そういう環境づくりをしてあげないといけないのではないかと。学年によって乱高下があるような加賀市の教育体制ではいけない。安定して県レベルと同じような学力状態にしていかないといけないのではないかと。今ホップステップジャンプで、3年目でジャンプになってきているんですが、手を抜いたら一気に落ちるもので、これを何とか維持させて先生方に自信と誇り、それから子ども達の自信と誇りになるように、繋いでいかないといけないのではないかと。明日はちょうど校長会がありますので、教育委員さんに山下指導主事が発表してもらったものと同じものを説明してもらおうと思っています。そして市長にも今一度説明したいと思います。昨日実は市長に成績だけは報告させていただきました。市長は、この成績はなぜこうなったのか、これを次にどう活かすのか聞かれました。本当を言うとちょっと早かったのかと思いますけども、大事にして継続できるようにしたいと思う。そして最後申し訳ないですが、資料3ありますね。各学校の実名を入れて、教育委員さんにはこれを全部実名で出します。ただ、文科省からも全部指示を受けているんですけども、国の平均、市の平均、そのくらいまでは出しますが、学校間競争、地域間競争があるのでそこまで出しません。よって資料3だけは回収させていただきます。校長会には学校名を伏せたかたちで見せます。自分の学校はすぐわかると思いますけど、校長会でもこれは集めさせていただきますと思います。

石橋委員長 ちよつと確認したいんですが、全国学力調査、小学校、中学校で抽出は加賀市がしているのですか。

山下指導主事 国がしています。

石橋委員長 国がどういう基準でしたかは全くわからないのですか。

旭教育長 採点もみんな国がしますから。他のところがしないといかんだらうということで、手を挙げたところは問題だけもらって同じ問題を自主的にさせるんです。そうすると学校で全部採点をしないといけない。自己採点をするもので、記述式が多いから軸がちょっとずれるんです。だから自己採点した方が小学校の場合は厳しめに採点するのかわかりませんが、3ポイントほど下がったんです。けども国、県、加賀市を比較するのは我々が採点したわけではないのでこれは透明性がある。全国も抽出していますから全国の平均、県も全部集めたものの平均、これも国が採点しています。その中において加賀市は大変高い成績です。石川県は全国3位ですから、3位を越えるほどの力量があるということですから大変なものだなと思います。ただ、福井県は今日言いましたけども全国1、2位ですので、全国的にここまで維持できればと思っています。来年がくつと落ちると問題ですが、来年は厳しいと思いま

す。それは小学校4年の県の学力テストのデータを持っていますから、これは非常に厳しいです。2年間でどう伸ばすかというロマンに挑戦してほしい。先生方の腕の見せ所ですと教育委員会は言っているわけです。

石橋委員長 もう一点、基本的なことを質問。小学校4年生は国語と算数、小学校6年生は社会、中学校3年生は社会と英語、というふうに科目がバラバラになっているのはいかなる理由でバラバラにしてあるのか教えてください。

旭教育長 これは石川方式なので県が決めたものです。福井ははっきりしているんですね。60年前からずっと続いています。石川県は県の学力テストを始めて10年も経っていません、福井は60年前です。どこも同じパターンなんですけど、福井はダイレクトにここに高校を作りたい、ここを活かしたい、はっきりと目的を持って動きます。石川県はオブラートになるんですね。国の学力テストは小学校6年で国語と算数をする。そしたら低学年の1、2、3年の学力から見ておかないといけないのではないかと。国の試験はないですが、県の試験で4年生に元々算数を位置付けした。だから県はおそらくこの4年の国語と算数が、この国の試験の2年間でどう変容したかというのを、例えば予算の関係もあって、国の試験を6年でやるなら重ねてやらなくても4年でやっていけばいいという発想なんです。小学校6年で国語と算数をするなら、それ以外の科目も見ればいいじゃないか。特に社会。そのような他の教科とのバランスを見ているんですね。私はそう見えています。私は無駄な試験だと正直思っています。だから福井ははっきりしているでしょ。全国があるなら小学校5年に持ってきているんです。私もそのとき県の教育委員会にいたもので、こんな試験何でするんだ、お金の無駄じゃないかということ結構言われていたんですが、これは大事なもので絶対やらないといけないと、学校指導課長も必死になって抵抗していた覚えがあります。県の財政課もそれから当時の教育委員会のトップの方も必要と思ってなかったんですね。ところが今になって秋田もそうだし福井も積み上げていった県は強いです。もうちょっと上手い試験のお金のかけ方をしたいなという気はします。

石橋委員長 他にございませんか。

全委員 意見なし。

石橋委員長 なければ報告案件はこれにて終了いたします。その他に参りたいと思いたすがよろしいですか。

梶谷課長 それでは事前にお配りしました資料に追加しまして、お手元の9ページに追加資料がございます。その他(1)～(12)まで一括で説明させていただいて、その後、順次質問等がございましたら受けたいと思います。各課から説明をしたいと思いますので宜しくお願いします。

■ その他(1) 平成24年 第64回石川県民体育大会加賀市選手成績結果について

谷口課長 資料に基づき説明

- その他(2) 北前船セミナーの開催について
田嶋課長 資料に基づき説明
- その他(3) 平成 24 年第 5 回加賀市議会定例会 (9 月) 会期について
梶谷課長 資料に基づき説明
- その他(4) スポーツ推進審議会の開催について
谷口課長 資料に基づき説明
- その他(5) 運動会・体育祭教育委員参観について
梶谷課長 資料に基づき説明
- その他(6) グッドマナーキャンペーンへの協力について
西出課長 資料に基づき説明
- その他(7) 加賀市民映画祭「2012in かが」について
西出課長 資料に基づき説明
- その他(8) 山中節全国コンクールについて
田嶋課長 資料に基づき説明
- その他(9) 加賀市の歴史と文化を知るツアー「九谷焼」について
田嶋課長 資料に基づき説明
- その他(10) 芭蕉祭山中温泉全国俳句大会について
田嶋課長 資料に基づき説明
- その他(11) 加賀市小・中学校科学作品展の開催について
梶谷課長 資料に基づき説明
- その他(12) その他
寺田図書館長 蔵書点検について説明

石橋委員長

それでは(1)から(12)まで、ざっといきましたけども何かご質問がございましたらお願いします。私から一点。グッドマナーキャンペーンですが、9月11日に大聖寺駅前に教育委員は集まって下さいということですか。

西出課長

時間の許す限りで結構でございます。

酒谷委員

各地区からも案内がくるんですね。中学校とか。

西出課長 そうです。

石橋委員長 逆に言うと、それ以外の日は各地区の方で立ってあげて下さいね、ということですね。

西出課長 はい。

掛山局長 運動会・体育祭の件ですが、どうしてもだめという日は入替えでお願いします。

旭教育長 委員長、明日は校長会があるんです。この表を校長会でも提示します。もしも今わかれば直します。学校からも案内が行きますので。

酒谷委員 毎年なんですけど、3つ一緒になるんですね。勅使と庄と東谷口、でも今年山代小学校と東谷口と勅使が一緒になりましたので、3つ掛け持ちになりますけどよろしいですね。ちょこちょこ回らせてもらっているんですけど、そんな感じで宜しくをお願いします。

旭教育長 要するに顔を出していただければ。

酒谷委員 なるべく開会式に間に合うようにと思っているのですが。

旭教育長 体は一つしかないですから。

酒谷委員 3つまとめてその日に回らせてもらいます。

旭教育長 去年はあそこの開会式行ったから今年は違うところへというかたちにしてもらえれば。

酒谷委員 それが、一つだけ8時30分というのがあるんです。

旭教育長 どこですか。早いですね。

酒谷委員 勅使がいつも8時30分なんです。それが終わってからすぐに隣の東谷口に行くんです。毎年3つ一緒になるんですけど、今年は山代小学校が一緒になりましたね。

石橋委員長 9月30日の湖北・山中、どなたか代わっていただけませんか。

旭教育長 都合が悪く委員さんがいなければ、事務局の誰かが対応すればいいと思います。

石橋委員長 他にないですか。

全委員 意見なし。

石橋委員長 なければ次回の日程をお願いします。それでは、9月25日13時30分でよろしいですか。

西出課長 もう一つだけよろしいですか。今晚の第2回目の市民夏期大学は初めての山代文化会館でございますので、7時半から「新しい知見で地震災害から家族を守る」ということで、危機管理アドバイザーの国崎先生に講演していただきますので、お時間の許す限りご来場していただきたいと思います。宜しくお願いします。

石橋委員長 せっかくですから20日の報告をして下さい。

西出課長 20日は150人弱だったんですけども、「オリンピック名場面の裏側」と題しまして、オリンピックだけじゃなかったですけども、スポーツを通してのリーダー観といいますか、アンケートをとりましても大変満足されていると書いておりました。基本的にはもう少し来ていただけたらと思ったんですけど

石橋委員長 　も、今後の課題にしたいと思います。
　他にございませんか。ないようであれば、これを持ちまして平成 24 年第 9
　回教育委員会定例会を終了させていただきます。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。